

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

| | | | |
|-------|----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 課題番号 | 19H05467 | 研究期間 | 令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度 |
| 研究課題名 | 発達障害に関わる神経生物学的機構の霊長類的基盤の解明 | 研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在) | 高田 昌彦 (京都大学・霊長類研究所・教授) |

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

| 評価 | 評価基準 | |
|---|------|---|
| | A+ | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| (研究の概要) | | |
| <p>本研究は、霊長類における最先端のウイルス遺伝子導入技術や、光・薬理遺伝学、集団行動解析技術を駆使し、ソーシャルマインドの成立や発達障害に関わる神経生物学機構を明らかにしようとする意欲的な提案である。</p> | | |
| (意見等) | | |
| <p>霊長類の社会行動を対象として、アデノ随伴ウイルスベクターの改変による遺伝子導入の工夫から、発達障害モデル動物の作出、霊長類集団を対象にした行動解析までが含まれる挑戦的かつ独自性の高い研究計画である。マーモセットとマカクザルのそれぞれの利点を活かした計画が立てられている。</p> <p>現在までに、恵まれた設備の下に適切な機器が導入され、研究組織内での連携も行われている。マカクザルへの脳内遺伝子導入技術とベクター開発、解析候補遺伝子の抽出は順調に進んでいる。本研究において最も独自性のある霊長類での集団行動解析についても解析基盤技術が構築されているが、前者の技術で遺伝子改変を行ったモデル動物における解析はこれからであり、今後の成果に期待したい。</p> | | |